

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2020年
10月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 上原 信幸

印刷所
文明堂印刷所

聖霊の導く使命とともに 追悼・ケン・ピーターズ司祭

司祭 ポール・マイケル・トルハースト

四十年前、ひとりの若きウ
エールズ人司祭が、MtSチ
ャブレンとして神戸に派遣さ
れて来ました。彼の名をケ
ン・ピーターズと言います。

ケン司祭は、滞在した七年
の間に、MtSを移転し新た
な船員センターを開設するな
ど、神戸のMtSを現代的な
環境に合わせて様々に変革し
ていきました。もちろん、こ
れをお読みになる皆さんは神
戸時代のケン司祭をよくご存
知だと思えますので、その後
の彼について少しお話しして
きましょう。

神戸を離れたケン司祭は、

まずポートチャブレンとして
リバプールに赴任しました。
この後二〇一七年に引退する
までMtSのロンドン本部で
職務を全うしましたが、そこ
での二十二年間は彼にとって重
い病との闘いの日々でもあり
ました。そして今年の五月、
彼は天に召されました。

本部でのケン司祭は、船員
のための司法と福利厚生担当
の責任者を務めました。正当
な賃金が支払われているかな
ど、船員が安全で公正な労働
環境を享受できるように尽力す
ることを自らの使命としたの
です。

です。

たとえば、国際海事機構や
国連において教会や船員を代
表し、契約改善について企業
や組合と闘ったり、海賊の人
質になった船員の解放を政府



右から2番目：ケン・ピーターズ司祭、
3番目：ポール・トルハースト司祭

に求めたり、彼は常に船員た
ちのために努力を惜しみませ
んでした。
ケン司祭はいわば「船員たち
の大きいなるadvocate」だった

のです。辞書で「advocate」を
引くと「代弁者」と出てきま
す。代弁者とは、「あなたの
代わりに声をあげる人」のこ
とです。彼らは傍らにいて、
困難な状況でも諦めずあなた
を支えます。彼らは正義を、
人々を信じ、愛情をもって必
要とする人々と共に在ろうと
します。

また、この言葉は英語で
「聖霊」を指す言葉として聖書
に多く現れます。たとえば、
イエス様が天国に召された
後、悲しみと不安に苛まれる
弟子たちにイエス様の存在を
示す助けとして「聖霊」は登場
します。

社会から疎外されがちな船
員たちのため、生涯をかけて
「代弁者」たろうとしたケン司
祭は、「聖霊」に導かれた人だ
ったように思います。

本来「聖霊」の姿は父なる
神やイエス様と比べ曖昧でわ
かりにくいものですが、ケン
司祭を思い出してみると、私
は「聖霊」をイメージしやすく
なるのです。

確かな未来を見通せなくな

っている今の時代に、実体の
ない「聖霊」が助け導いてくれ
ると信じるのは難しいかもしれ
ません。けれど私たちは、
「聖霊」に導かれるがごとく行
動できる、ケン司祭のような
人たちを知っています。常に
弱者を気にかけて、困っている
人に手を差し伸べている人た
ちを知っています。

私たちは、彼らの言動によ
って日々「聖霊」の存在に触れ
ているのではないのでしょうか。
ケン司祭は、船員たちを信
じていました。彼らを愛し、
最も彼らのためになることを
願ってきました。そして主の
み霊である「聖霊」も、今この
時、私たちと共にあり、私た
ちを慈しみ、信じ支えなが
ら、人生の豊かさを謳歌して
欲しいと願っているに違いあ
りません。

ハレルヤ！
神戸マリナーズ・センター
（チャブレン）
（翻訳・河野利香）
MtS職員

ハレルヤ！
神戸マリナーズ・センター
（チャブレン）
（翻訳・河野利香）
MtS職員

Withコロナと 第五十二回神戸教区婦人会大会

今年五月十九日(火)から二十日(水)まで、第五十二回神戸教区婦人会大会が広島で開催される予定でした。しかしコロナ禍により、その開催を断念せざるを得なくなりまして、大会は開催できませんでしたが、予定されていた講演内容などを中心にした大会報告号が発行されることになりました。

教区婦人会チャプレンの上原信幸司祭は「文書による婦人会大会」と表現されていますが、その充実した報告内容を賞賛する声が各所から聞こえて参り、その発行に至った経緯や思いを教区報でも取り上げさせて頂くことになりました。そして婦人会大会報告号を編集、発行された広島復活教会婦人会(オリープの会)に原稿を依頼して、今日寄稿して頂いた次第です。

今年、婦人会大会に限らず多くの行事を断念せざるを得なくなりましたが、こうした文書発行という方法も、ミミコロナ時代の活動の選択肢の一つとして参考になるのではと思います。

尚、この婦人会報告号は既に各教会に配付されています。婦人会員以外の方々もお読み頂ければ幸いと思います。

(広報部・司祭小南 晃)

ただただ感謝

二〇一七年から三年かけて準備をしてまいりました「第五十二回神戸教区婦人会大会」は、新型コロナウイルス感染拡大により中止となりました。この決断をする時、今まで諸先輩のお働きのもとで長きにわたり受け継がれてきた婦人会大会が、初めて中止になってしまふことに悲しみと無念さでやりきれない気持ちでした。

開催を予定していた今年五

月十九日～二十日からほぼ三か月が過ぎようとする今、改めて婦人会の皆様にお送りしました「礼拝式文」大会資料『神戸教区婦人会大会報告書』をゆつくり読み返しています。

神戸教区婦人会チャプレンの上原信幸司祭様がその中で「準備されたプログラムは実施されなくとも、送付された資料によって、その活動や思いは神戸教区の全ての婦人会の方々の心に、刻まれることと思います。」とお言葉に、折々の色々な状況がよみがえり、胸が熱くなりました。

全てを終えて、今改めて感じることは、準備を進めて行く上で、常にイエス様が共にいて下さり、神様の豊かなお恵みがあったことに尽きるということです。

大会の講演をお願いした広島女学院院長学長・湊晶子先生とのご縁をいただいたのは、当時の副学長桐木先生が友人の恩師であったことが始まりです。その桐木先生を通して、湊先生に講演の依頼をしました。当時八十五歳の先生

は、「三年たったら八十八歳ですよ。」と言われつつも、「教会婦人会の方々を前にお話をするのを楽しみに、それまで元気でいなければね。」とお引き受け下さいました。

また会場は、当時知り合いがホテルグランヴィア広島が社長でしたので、快く引き受けてもらいましたが、一年後には京都に転勤となり、何とタイミングが良かったことかと胸をなでおろしたものです。

それにもまして広島伝道区の集まりで、大会の協働をお願いすると三教会の婦人会の皆様も二つ返事で気持ち良くお引き受け下さいました。

伝道区長の竹内宗司祭様の「何でも言うて下さい。やりますから。」の心強いお言葉は今も耳に残っています。長田吉史・永野拓也両先生はじめ、広島復活教会のオリープの会の皆さんには、どの様な作業をお願いしても、全て快く協力して下さいました。また教会をあげて男子会の皆さんも大会当日の役割分担を買って出て下さいました。勿

論、神戸教区婦人会本部の役

員の方々には色々ご指導をいただきました。何度振り返ってみても、どのような時にも背中を押して下さいました。温かい励ましに、ご協力に、ただただ感謝しかありません。心より御礼を申し上げます。

コロナ対応でお忙しかった湊先生が四月下旬「自宅でテレワークになったから講演予定内容を文章にしましょう。」とメールを下された時は、本当に嬉しくほっといたしました。

大会資料送付後に「湊先生の講演を直接聴けたらどんなに素晴らしかったでしょう。」と多くの方からお手紙をいただきました。私も心からそう思っています。

最後に湊先生の座右の銘をご紹介します。

Crushed grapes can
produce delicious wine.

(ブドウは砕かれてはじめて
おいしいブドウ酒になる)

(第五十二回神戸教区婦人会
大会準備室 谷 照子)

オーガスチンの まなざし



主教 小林 尚明

『司祭接事前リトリート』

八月二十二日(土)に予定していましたがバルナバ永野拓也執事の司祭接手式は、兵庫県における新型コロナウイルス感染症拡大のため、再延期となりました。ただ「接事前のリトリートは、しておきましょう。」ということだったので、八月十八日(火)～二十一日(金)まで、宝塚の黙想の家を会場にリトリートを行いました。黙想指導の私と永野執事の二人だけの黙想会です。礼拝は、朝夕の祈り、正午前の聖餐式を二人で守りました。

『リトリートの内容』

どういった黙想をしようかと考えた末、祈禱書にある新執事への諮問(祈禱書四七四頁)と新司祭への諮問(四七五頁)を中心に黙想指導を行いました。執事への諮問の中で、執事は教会の信徒の皆さんに仕えることは当たり前ですが、祈禱書には、「この世の人々(未信徒)の必要、関心、希望を正し

く教会に伝えなければなりません」とあり、執事の関心は教会の中だけにあってはならないことを確認しました。これは、現代にあつて教会が宣教ということを考える時に忘れてはならないものです。

そして、執事接手式、司祭接手式の聖書日課を黙想のテキストとしました。仕えること、準備すること、派遣されること、神様との出会い、良い羊飼いのついてなど、聖書の解説、黙想、分かち合いと充実した時を過ごしました。

最後に、今回のリトリートで、一番伝ええたかったことは、マタイ伝二十一章三十三節以下の「ぶどう園と農夫のたとえ」から、なぜ主人は収穫を受け取るために送った僕たちが、殺されたのに、自分の息子を送るのか、それほど収穫が欲しいということなのか、ということとです。収穫が欲しいということではなく、「あなたのためにこれだけの準備をした私がいえることを知ってほしい」という神様の思いです。その思いを伝えるために神様は独り子なるイエスをこの世界に遣わして下さいました。永野新司祭の下にも神様は、素晴らしき準備をしてくださってほしいと伝えて黙想会は終了しました。

(神戸教区主教)

被爆七十五年 広島原爆逝去者記念聖餐式を終えて

今年、広島と長崎に原爆が投下されて七十五年目という、一つの節目の年でした。が、新型コロナウイルスの影響によって、これまでのような広島平和礼拝を開催することができませんでした。しかし、そのような状況の中でも、八月五日(水)にカトリック教会との合同プログラムとして原爆供養塔前での「祈りの集い」を行い、そして八月六日(木)には広島復活教会で被爆七十五年の「広島原爆逝去者記念聖餐式」を献祭いたしました。

八月五日(水)の「祈りの集い」の中でカトリック広島教区の白浜満司教様は次のようにメッセージされました。

「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。」「心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。」「今読まれた福音は、逆説的な表現で、まさに神の力に信頼することを私たちに教えてくれています。神は、人間の前に見て幸せだと思えない状況にある人々を、そして人間の前に見て、効果的だと思えない方法を用いて、真の幸せに私たちを導く力を持っておられます。教皇フランシスコは、『神への信頼を失ってはな

りません。状況は変わりませんが、状況は変わりません。そして人間も変わります」と教えてくれています。昨年の十一月二十四日に、広島を訪問された際には、平和の道を切り拓く力として、①思い出し、②共に歩み、③守る、という三つのことを私たちに提示されました。過去の悲惨な出来事を思い出し、現代社会の人々の願いと望みを共有して共に歩み、神が与えてくださった共通の家であるこの世界を守ることが私たちに求められています。」

では、教皇フランシスコが提示された「①思い出し、②共に歩み、③守る」のために、私たちは何を大切にしておかないといけないのでしょうか。それは、個人的には「主イエスにふさわしくあること」ではないかと思っています。つまり、主イエスと共に自分以外とも「調和する」、「一致すること」です。これを換言するならば、自分だけ、自分たちだけがふさわしいことに執着しないということとです。

カトリック教会の早稲穂神父が執筆された「原爆と私」戦争は人間のしわざです」という冊子の中に、「部分を絶対化する」と破壊が起ると題され

た文章があります。この「部分を絶対化する」とは、自分や自分たちといった、いわば身内と感じるところの絶対化です。今、教会においても、政治においても、様々な活動にしても、「部分が絶対化されている」ところはたくさんあるように思えます。まるで、自分の(自分たちの)思いと言葉と行いは間違っていないとばかりに、それを絶対化している。これによって、様々な破壊が作り出されているように思えてなりません。しかし早稲穂神父は、先の文章の中で、そのような状況に対して次のように語られています。「人類全体が一つの『我々』、身内としての存在を持つようにならないことが大切、と。そのためには、やはり私たちが「主イエスにふさわしくあること」、それは誰とでも「調和すること」、「一致すること」が何よりも必要なのではないのでしょうか。

戦後七十五年目にあたり、私たちは「部分が絶対化されている」様々な状況をしつかりと見つめ直し、垣根を超えたすべての調和、バランスを大切にして、誰もが「我々」として一つになり、お互いが身内のような存在となることを共に目指して参りたいものであります。

(広島平和礼拝実行委員長) 司祭 長田吉史

鳩だより 《敬称略》

祝 堅 信

八月二日(日) カ 奈良岡 成 季
呉信愛教会

ご 逝 去

七月三十一日(金) マリヤ 秋 山 豊 子
下関聖フランシス・ザビエル教会

八月一日(土) ミカエル 福 井 豊
神戸聖ミカエル教会

八月十四日(金) ヨ ブ 伊 藤 健 彦
徳山聖マリア教会

八月十七日(月) パウロ 原 涼 一
神戸聖ミカエル教会

八月十九日(水) マッテヤ 木 村 亮
洲本真光教会

八月二十九日(土) ル カ 野 間 悦 三
姫路顕栄教会

八月三十一日(月)

ミカエル 佐 藤 信 友
神戸聖ミカエル教会

教 籍 移 動

八月一日(土) ク ラ ラ 松 阪 恵 美 子
松江基督教会から
浜田基督教会へ

お 知 ら せ

○八月二十二日(土)に予定されて
いたバルナバ永野拓也
執事の司祭接手式は、新型

コロナウイルス感染拡大のため
再延期となり、九月二十一日(月)に、
人数を制限した中で、
広島復活教会にて執り
行われました。詳細は、
次号に掲載致します。

○九月一日(火)〜三日(木)に
予定されていた教区召命黙
想会は、新型コロナウイルス
感染拡大のため、中止と
なりました。

11月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2020年11月5日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 中原 康貴

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、
ご出席される方は、事前に教区事務所まで
お問合せ下さい。よろしくお願い致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

*11月の記念逝去教役者

1日	司 祭	レイモンド	クリストファー
3日	司 祭	パウロ	山 本 早 太
4日	司 祭		山 辺 久 吉
8日	宣教師	ヴァイオレット	ハ イ ド
9日	司 祭	アンデレ	児 玉 正
13日	司 祭	モーセ	木 俣 茂 世
17日	伝道師	ルデヤ	内 田 歌 子
17日	司 祭	ウイリアム	ハ ン コ ッ ク
18日	伝道師	チッポラ	末 好 信 子
19日	司 祭	ヨハネ	側 垣 正 己
20日	司 祭	パウロ	秋 田 哲 三
22日	伝道師		塩 原 以 満
28日	宣教師	ジャネット	マ ッ キ ー
30日	宣教師	エイミ	ボサンケット

※逝去年月日不明の方々もお祈りします。

収穫感謝献金のお願い

奉献先：徳山聖マリア教会
募金額：210万円

同教会は、礼拝堂増築・会館建築の費用の補助として申請しています。皆様のご理解とご協力をお願いします。各教会でお届けくださり、教会ごとにまとめて11月23日(月)までに、神戸教区宛てに振込送金をお願いします。

(納付金と同じ口座に収穫感謝献金と明記してください。よろしくお願い致します。)